

『海事DATA/AIアイデアソン』

IoS-OP 3.0を考える

社会課題の解決やビジネスの創出に
つなげていくためのアイデアをみんなで考えよう!



IoS-OP (Internet of Ships Open Platform) は、船舶運航データ活用のための共有基盤として、世界に先駆けて構築されました。第1期 (IoS-OP 1.0: 2015 ~ 2019年) として、データオーナーシップを始めとしたデータ共有に関するルール作りと関係者による合意、およびデータ共有にかかるIT基盤の整備を実施。現在は第2期 (IoS-OP 2.0: 2020 ~ 2024年) として、実ビジネスでの船舶運航データの活用促進を実施しています。IoS-OPは、船社・造船所・船用工業・保険・船級・ICTなど業界を横断し、また競合他社も含めて合意した枠組みであり、他業界と比較して最も進んでいる取り組みであると評価され、業界内外・海外海事関係者からも注目されています。

一方、海事業界においても、新型コロナウイルス感染症の影響により経済活動が停滞・混乱している中で、海運・造船市況は大変厳しい状況ではありますが、現在の危機を正しく認識するとともに、来るべき未来を想像し、その未来に向けた取り組みを着実に進めていくことで、明るい未来が切り開かれるものと考えております。

今回のアイデアソンでは、将来の海事業界をけん引する若手・中堅参加者が所属企業の業務にとらわれず、他の参加者とともに「DATAやAIを活用して、世界をどうしていきたいのか、そのためには何をすべきなのか」を真剣に集中して議論し、社会課題の解決や新たなビジネスに向けたアイデアの創出 (IoS-OP 3.0: 2025 ~ 2030年) とブラッシュアップを、講師およびアドバイザーと一緒に行っていただきます。



申込みはコチラ



2020年9月1日 (火) ・9月2日 (水)

講師



石澤直孝氏

1991年 一橋大学商学部卒、日本郵船に入社。鋼材完成車などの不定期船や南米アフリカ航路などの営業を担当。2004年 日本郵船グループの技術開発子会社MTI設立とともに出向。ICタグ技術を利用した物流サービスの開発に携わる。2006年8月から14年までバーコード、ICタグの国際標準規格団体GSI/EPCグループ (本部ブリュッセル) 物流部会共同議長。2014年から19年までインドのNYK Auto Logistics (India) Pvt. Ltd. に出向。2019年4月からNYKデジタル アカデミー学長。

アドバイザー



満行泰河氏



仲山紘史氏

スポンサー



日本郵船



協力：一般社団法人日本船主協会 日立造船株式会社

